

地域の未来を創るマリン・イノベーターの育成 ～IT導入による持続可能な地域社会の創造～



事業の目的

水産分野の産業構造が変化し、仕事の内容の革新が求められる中、カキやアサリ、コンブなどの水産業を基幹産業とする厚岸町において、IT技術を活用したスマート水産業の実践を通して、地域の資源管理型漁業の推進に寄与するとともに、デジタル人材の育成をはじめとした地域産業の持続的な成長を牽引する最先端の職業人を育成する

事業概要

①水産資源の持続化に向けた取組

- ▶ 沿岸漁業における漁獲データをデジタル化
- ▶ 魚群探知機の技術習得と資源管理型漁業の推進
- ▶ カキやアサリなどの養殖施設にスマートブイを設置して海洋環境を把握



②漁家経営の持続化に向けた取組

- ▶ 沿岸漁業者と各種データを共有して資源管理を推進
- ▶ ドローンやAIを用いて赤潮など漁場環境の変化を把握
- ▶ 実習の様子をカメラで撮影して作業効率化と安全体制の構築



③地域経済の持続化に向けた取組

- ▶ 地元水産物の料理レシピの開発とネット販売による魅力発信
- ▶ 未使用資源の有効利用と商品のブランド化
- ▶ 食と観光をミックスした観光パッケージツアーの開発



卒業後の姿「未来に翔く人材」

- 専門技術を活かしてスマート水産業をけん引する人材
- 地域創生の担い手として漁業・食・観光の分野で活躍する人材
- 地域資源の商品化・ブランド化を推進し地域産業の持続的な成長に寄与する人材

実施体制



地域の未来を創るマリン・イノベーターの育成 ～IT導入による持続可能な地域社会の創造～



【令和5年度の目標】 地域との協働をととして持続可能な未来を担う人材を育成する

令和5年度の主な取組



厚岸湾に「うみログ」を設置し、リアルタイムで水温、塩分、流速、有害プランクトンの値や海面の様子を確認できるようになった。



空中ドローンを活用して、浮球の状況を把握し、保守点検に生かすとともに、実習の空撮映像を用いて、生徒が作業を確認して振り返ることができた。



企業と連携して地元の特産物である牡蠣を活用した新商品を開発・販売するとともに、新聞やテレビの広報活動で地域や学校の魅力を発信した。



「全国豊かな海づくり大会」において、来場者に映像やチラシを用いてマイスター・ハイスクール事業の取組について説明し、周知活動を行った。



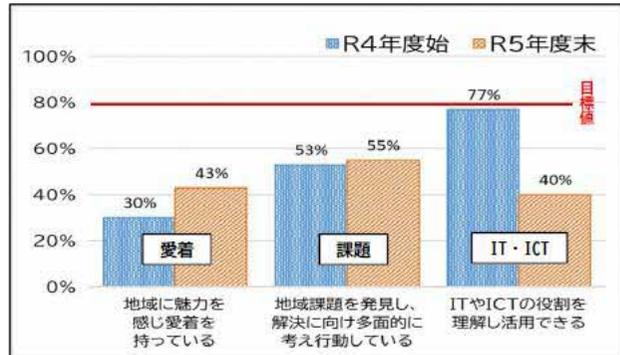
専門家による「商品開発にのノウハウ」や「食品の衛生管理」の出前授業を通して、次年度の商品開発に向けてそれぞれの考えを整理した。



H本校の取組を周知するコンテンツを作成し、AndroidTVにインストールしたアプリにアップロードして、Wi-Fiに接続して視聴できるようにした。

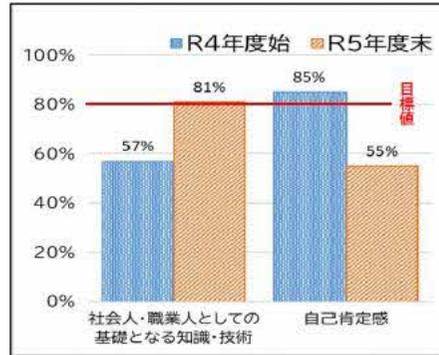
成果と課題

＜定量的目標に関する評価結果＞



- ・目標値には届いていないが、「愛着」や「課題解決」に関する項目などで肯定的な評価をした生徒の割合が増加した。
- ・「IT・ICT」の項目については、大きく低下した。

＜定性的目標に関する評価結果＞



- ・「社会人・職業人としての知識・技術」の項目は大きく増加した。
- ・自己肯定感の項目については、大きく低下した。

＜次年度の主な取組＞

- ・「うみログ」について周知し、活用する漁業者を増やして、資源管理型漁業に資する取組を充実する。
- ・ドローンを活用して様々なデータを収集し学習内容を充実する。
- ・新商品の開発を通して、地域の魅力を一層発信する。
- ・事業終了後もこれまでの取組や成果等に関する学びを持続的に行っていくため、学校設定科目の学習内容を整理する。